

千葉県旭市におけるゲンバイヒルガオ (*Ipomoea pes-caprae*) の生育記録

水野大樹

千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

E-mail: tmizuno@chiba-muse.or.jp

(2022年9月30日投稿；2023年12月14日改訂；12月19日受理)

要旨 千葉県旭市の海岸において、ヒルガオ科の多年生植物であるゲンバイヒルガオの生育を2020年10月(1個体)、2021年9月(2個体)に確認した。これは千葉県内における北限の記録となる。

キーワード： ゲンバイヒルガオ, 北限, 旭市

ゲンバイヒルガオ [*Ipomoea pes-caprae* (L.) R.Br.] は世界の熱帯から亜熱帯の海岸に生育するヒルガオ科 (Convolvulaceae) の多年生植物である。種子が海流で散布されることから、海岸に漂着した種子が発芽し、日本各地で生育が確認されることがあるが、発芽した個体はその場所に定着し、繁殖が可能となる分布域は限られている。

中西(1987)では、日本海側では山形県酒田市まで、太平洋側では茨城県日立市まで分布することが確認されているが、繁殖可能な個体の分布の北限は宮城県高鍋町であり、定着可能な分布域と繁殖可能な分布域で大きく違いがみられることが示されている。その後、日本各地において繁殖が確認されており、中西(2011)では大分県、熊本県、長崎県(五島市、長崎市)、高知県、徳島県、兵庫県淡路島、和歌山県、千葉県でも繁殖することが示されている。それ以降の報告では、和歌山県みなべ町(田名瀬・久保田, 2012)、長崎県西海市(中西, 2016)、大阪府阪南市(横川ら, 2018)などでの繁殖記録があり、近年、繁殖分布の拡大傾向がみられる。

これまでの記録では、繁殖分布の太平洋側の北限は千葉県と推測される。千葉県内におけるゲンバイヒルガオの分布は、富津市(三幣, 2006)、館山市(中山, 1974, 山井, 2001)、天津小湊町(現鴨川市)(千葉県生物学会, 1975)、いすみ市(森谷, 2008)、長生村(千葉県生物学会, 1975)と東京湾側から太平洋側にかけて記録があるが、このうち、繁殖を示す開花や結実の記録としては、館山市小沼(山井, 2001)、丸山町(現南房総市)(千葉県史料研究財団, 2005)における開花個体の写真が存在する。

今回、開花や結実は見られなかったものの、千葉県における太平洋側の分布北限となる旭市刑部岬において2

年にわたり同一場所でゲンバイヒルガオの生育を確認したので報告する。

生育状況

生育が確認されたのは、旭市下永井の刑部岬の南側、屏風ヶ浦の最南端に位置する砂浜である。2020年10月28日に砂浜のフロラ調査を実施したところ、竹や流木等の植物片とプラスチックやゴムなどの人工物が混在した海岸漂着物に埋もれた状態で葉を展開する若いゲンバイヒルガオ1個体を発見した(図1)。花をつけた痕跡は確認できなかった。個体の生存に影響を及ぼさないと考えられる範囲で茎及び葉を採集し、さく葉標本として千葉県立中央博物館の第1収蔵庫に保管した。

同一場所を、約1年後の2021年9月15日に確認したところ、海岸漂着物は消失していたが、同一場所に本葉を30枚程度つけたゲンバイヒルガオが生育している



図1. 海岸漂着物に埋もれて生育するゲンバイヒルガオ。2020年10月28日。



図2. 2020年10月と同一の場所で生育が確認された個体。2021年9月15日。

ことを確認した(図2)。当該個体の周辺を確認したところ、本葉を7枚つけたグンバイヒルガオの幼齢個体1個体を確認した(図3)。本葉のうち2枚は昆虫類によって採食された痕跡が見られた。これらのうち、30枚程度葉をつけた大型の個体については、生存に影響を及ぼさないと考えられる範囲で茎及び葉を採集し、さく葉標本として千葉県立中央博物館の第1収蔵庫に保管した。

その後、2022年3月25日に現地を確認したところ、地上に展開する葉は確認できなかった。

考察

太平洋側におけるグンバイヒルガオの生育北限記録は茨城県日立市(中島, 1970)とされており、今回の生育記録は太平洋側における北限ではないが、千葉県の太平洋側の北限記録である。

2020年の調査では、漂着物の間に生育する1個体しか確認できなかったが、2021年9月に生育段階の異なる複数の個体を確認できたほか、2年目の調査で、本葉を30枚以上付けた個体の確認をすることができた。

グンバイヒルガオは当年性実生でシュート長50cm以上になるほか(中西, 2011)、繁殖分布域外でも本葉を30枚以上つける個体が存在することが知られている(中西, 1987)。今回の調査では個体を識別して継続的に観察をしなかったことから、2年にわたって見られた個体が必ずしも越冬個体であると断定はできないものの、旭市の海岸においてもグンバイヒルガオが継続的に生存可能な環境が維持されている可能性がある。

グンバイヒルガオは熱帯域を分布の中心とする多年生植物であり、冬季の気温は定着に重要な影響を与えると考えられるが、直接的な波の影響を受けるような海岸線に生育することから、高波などのかく乱の影響など、立地条件も越冬には重要であると考えられている(横川, 2018)。今回生育が確認された場所は、太平洋側の分布北限(茨城県日立市)と繁殖分布の北限(千葉県館山市・

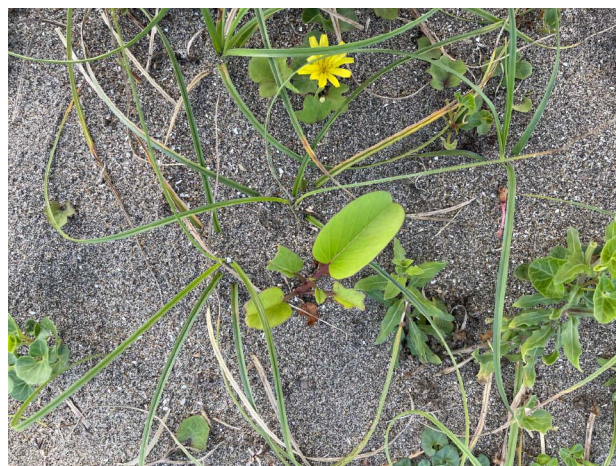


図3. 新たに生育を確認した幼齢個体。2021年9月15日。

南房総市)の間に位置する。今後生育が確認された場合、個体識別をした上で周辺の立地条件などを含めた生育環境の変化も合わせて、継続的に観察することで、定着の要件や越冬・開花の要件を明らかにできるかもしれない。

証拠標本: 千葉県旭市。刑部岬, 2020年10月28日, 天野誠・斎木健一・西内李佳・水野大樹採集, (CBM-BS 418497); 2021年9月15日, 水野大樹採集, (CBM-BS 420538)。

謝辞

本報告をとりまとめるにあたり、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の伊藤彩乃氏には標本情報の提供において大変お世話になった。ここに深く感謝する。

引用文献

- 千葉県生物学会. 1975. 新版千葉県植物誌. 567 pp. 井上書店, 東京.
- 千葉県史料研究財団(編). 2005. 千葉県植物写真集. 千葉県の自然誌 別編(2). 409 pp. 千葉県, 千葉.
- 三幣良信. 2006. グンバイヒルガオとハマモトが富津に生育. 千葉県植物誌資料(21): 186.
- 森谷淵. 2008. 和泉一日在浦だより 広がった砂浜の恩恵. さとのかぜ 162: 4.
- 中島明彦. 1970. グンバイヒルガオを久慈海岸で発見. フロラ茨城 50: 3.
- 中西弘樹. 1987. 日本本土におけるグンバイヒルガオとハマナタマメの分布と海流散布. 植物地理・分類研究 35: 21-26.
- 中西弘樹. 2011. グンバイヒルガオの海流散布の現状とその分布拡大. 植物地理・分類研究 58: 89-95.
- 中西弘樹. 2016. グンバイヒルガオ群落の北限自生地(長崎県)での生育状況. 漂着物学会誌 14: 1-3.
- 中山幹. 1974. 房総南部の海浜植物と暖地植物. 採取と飼育 36: 78-81.
- 田名瀬英朋・久保田信. 2012. みなべ町‘千里の浜’において自然開花(2009年夏季)したグンバイヒルガオ(ヒルガオ科)の記録. くろしお 31: 17-18.
- 山井 廣. 2001. 第6節 安房地域の海岸植生 4. 所収 千葉県史料研究財団(編), 千葉県の自然誌 本編 5 千葉県の植物 2-植生一,

pp. 353–364.

横川昌史・自然と本の会. 2018. 大阪府新産のゲンバイヒルガオ
(ヒルガオ科) と生育状況. 大阪市立自然史博物館研究報告 72:
43–45.

**Growing Records of *Ipomoea pes-caprae*
in Asahi City, Chiba Prefecture**

Taiki Mizuno

Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan
E-mail: tmizuno@chiba-muse.or.jp

Ipomoea pes-caprae was found on sandy beach in the Asahi City with a single plant in October 2020, and two individuals in September 2021. This is the northernmost record of this species in Chiba Prefecture.